

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

* ゴーチェ子午環子午線票室探検

2008年12月19日～20日、京都・同志社大学で第2回天文学史研究会・第41回談天の会が開催された。筆者は「国立天文台天文情報センター・アーカイブ室立ち上げ」という演題で講演させてもらった。目的は国立天文台天文情報センターにアーカイブ室が開設されたことの宣伝と、アーカイブしたもの、アーカイブすべきものなどへの情報提供の依頼であった。この研究会で、筆者が天文月報2008年9月号に書いた「国立天文台最古といわれた1875年製望遠鏡の物語」を読み、子午儀、経緯儀などについて質問してこられた測量史研究者とお会いした。彼らの仲間が国立天文台を測量史研究者の立場で見学したいと申請しているのでぜひ筆者に案内をお願いしたいという事であった。彼らの見学したい項目は、以下の通りである。

- 1) 菱形基線端点 (三角ピラミッド内部)
- 2) 地理調査所磁気点標石
- 3) 三角点「三鷹村」
- 4) 子午環 (ゴーチェ) をガラス越しではなく実物をそばで見たい
- 5) 子午儀 (レプソルド) をガラス越しではなく実物をそばで見たい
- 6) 子午線票庫内部 (ゴーチェ、PMC)
- 7) 日本最古の望遠鏡 (1875年製経緯儀)
- 8) 貴重書「東京天文台経度測量半年報」の閲覧
- 9) 筆者が最近発見した27cm1等経緯儀などの国立天文台所蔵測量器械

これらは、全てがすぐにはOKできるものではなく、それなりの準備が必要であった。施設課に鍵の所在を確認しておくもの、図書に所蔵されているか確認が必要なものなどがあり、さっそく準備を始めた。PMC子午線票庫の鍵の存在はすぐに確認できたが、ゴーチェ子午環の子午線票庫は何十年も人が入ったことはないと思われるし、鍵についても調査が必要であり調べてもらうことにした。先方が言ってきた貴重書「東京天文台経度測量半年報」は図書で調べてもらったところ、書名が違っており、「**東京城天守台の経度測量半年報**」である事が判明し、**現在、図書室に調査を依頼中である。**

ゴーチェ子午環子午線票庫は子午環の南北100mの場所にあるが、南子午線票庫は雑木林の中で、当然場所は分かるはずだが、現在ではそれを見ることさえできない。北子午線票庫は、道路際でもあり、また筆者が天文学会理事をしていた頃、天文学会事務所脇であったからよく知っていた。アーカイブ室で働くようになって、ぜひともこの中を探検したいと思っていた。

今回、測量史研究グループがその中を見たいと言うのは、絶好のチャンスである。その

ためには、まず事前の探検が必要である。施設課の許しを得て、このゴーチェ子午環北子午線票庫（室）（写真1）に潜入をはかった。



写真1 ゴーチェ子午環北子午線票室

子午線票室の窓から中をのぞいたところ、ピアノ上になにやら子午線票らしいもの（写真2）が見える。



写真2 子午線票室窓から撮影された子午線票

さて、確かに子午線票室にはそれらしいものがあることは確認できた。子午線票室に入るのは何十年ぶりか知らないが、筆者は工夫を凝らし、とにかく中に潜入した。そのピアノの上にぽつんと豆電球だったらしいものを取り付けられた標識の架台(写真3)があった。豆電球は架台から外れてその脇に落ちていた。



写真3 ピアノ上の子午線票

豆電球にいく電線は切断されており、使われていた形跡はなかった。そして写真を撮っていると天井から頭、肩、背中に向かってなにやら飛び掛ってくる、懐中電灯で照らすと真冬だというのに「かまどうま」らしい虫が無数にいるのではないか、いささか閉口して早々に退散した。まあ、これで測量史研究家グループに子午線票室をお見せすることはできる。今回は、予備調査であったこともあり、全くの単独行動で探検をした。